

---

# 恋人談義

柚木夏莉(花散里)

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋人談義

### 【Nコード】

N8381Y

### 【作者名】

柚木夏莉（花散里）

### 【あらすじ】

鯉伴は恋人が出来ない悩みを首無に相談したが

鯉伴& amp・首無しのギャグ小咄です。

他サイトで書いた作品を投稿しました。

(前書き)

若菜との出会いが出る前に書いたものです。

それはある日、首無と毛倡妓の何気ないやりとりを見ていた二代目の口から発せられた。

「なんで俺には恋人ができねえのかな……」

膝の猫を撫でながらやもめの鯉伴の言葉に、顔についた汚れを拭いてもらっていた首無は呆れたように答えた。

「彼女ならいるじゃありませんか。いっぱい」

妻が蒸発して以来遊廓岡場所、芸者に素人娘に至るまで鯉伴の交友関係は多彩だ。

しかし鯉伴はむっとしたように答えた。

「つきあってる女じゃねえ。恋人だ！」

「世間一般ではそれを恋人と呼ぶのでは？」

と首無は浮いた首を傾げた。

「違う！ 花魁も茶屋女も芸者も金の切れ目が縁の切れ目だ。素人女も抱いたが惚れちゃあいねえ！」

「また堂々とろくでなし宣言を……では乙女様以外でどんなのがお好みで？」

「うーん。死んだお袋みたいなの」

「生涯独身でいなさい」

「誤解だ！ 俺はお袋のように愛らしくて柔らかさそうで丸い瞳の女がいいと言ってるんだ！」

「ああ、それなら」

と首無は頷いた。

「ぴったりな相手がいますよ。つぶらな丸い黒い瞳で、柔らかく最高の抱き心地。ミケですが器量良しです」

「なんだ？ 良太猫のところの店員か？」

「いえ、その抱いている猫ですよ」

思わず二代目が前のめりになった。

「お前！ 俺に猫を恋人にしろってのか!？」

「嫌ですか。では細身の犬を探してきましょう」

「猫か犬かじゃねえ！ 獣相手にどうしろってんだ！」

「大丈夫。私はあなたがそんな変態でも見る目を変えませんよ」

「というか今変態と思っとるのか貴様！」

ふつと首無は首を振った。

「そんなわけないじゃないですか。軽い冗談ですよ」

「そ、そうか……」

と鯉伴は浮かしかけた腰を下ろして、ばつが悪そうに笑った。

「私が聞いた話によりますと、狒々様のお知り合いに大層賢い女性がおられるそうです。異国の血をひかれていますそうですが、二代目の姐御候補としてお会いになってみてはいかがでしょうか」

父の茶飲み友達の美しい女顔の妖怪を思い出し、鯉伴は興味をそそられた。

「へえ、そいつは初耳だな」

「普段は人目を避け、森でお暮ららしいです。美しいすらりとした手足をお持ちとか」

「悪くないな」

と鯉伴はにやりと笑った。

異国の血をひく賢女。おとしがいがあある。

たとえ恋心を持ってなくても男としては捨てがたい魅力だ。

「何て名前だ？ そいつ」

「オランウータンと言われるそうです」

今度は完全に鯉伴はこけた。

「首無！ てめえそれは猿だ！ お前は猿を姐御にしたいのか！？」

「私はあなたの趣味にとやかく言う気はありません。それがあなたのお望みなら従うまでです」

「従わんでいい！ というか俺への認識を変えてくれ！」

「ですが動物好きですよね？」

「意味が違う！」

「そうですか まあ妖怪も動物と言えないこともないですからね。では妖怪の女性は諦めましょう」

「何故そう飛躍する！？」

叫ぶ鯉伴を尻目に首無はこころごとく笑った。

それから約二百年後

ある日鯉伴は息せききつて帰ってくると、首無の元に駆け込んだ。

「聞け！ 首無！ 俺にもついに惚れた相手があった！」

それに首無はにっこりと笑った。

「それはおめでとございます。四百年の快挙ですね。で、お心を射止めた女性はどんな絶滅危惧種で？」

「聞いて驚け！ 人間だ！」

鯉伴は勝ち誇ったように叫んだ。

「ほう。そういえば人間も動物の一種でしたな」

「ざまあみる！ これでもう俺を変態だの情緒欠落性愛妖怪だの、浮気が服着たぬらりひょんだなんて言えねえぞ！」

「最後のは私ではなく妖怪の一般常識です」

「とにかく！ 俺はあいつと結婚する！ もうプロポーズはした！ あいつが来年成人し次第祝言だ！」

「ではお相手の方は十九歳ですか。恐竜と化石のカップルよりはお似合いですな」

「？ いや、来年成人って言ったろ？」

「だから十九」

「妖怪は十三で成人だろ？」

一瞬の間の後、首無の紐が鯉伴の全身を拘束した。

「この変態！ 小学生に求婚したのか！？」

「なんだよ！？ まだ手は出してねーぞ！？」

「当たり前だ！ 私は性犯罪者を上司に持つ気はない！」

結局、首無にこんこんと諭され、先ず登下校の送り迎えからと微笑ましい恋愛を展開することになった鯉伴を奴良組全体が生暖かい目で見つめた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8381y/>

---

恋人談義

2011年11月24日23時55分発行